

Vol. 843

# 富山経協



サザンカ (解説・19ページ)

## CONTENTS

- 2 東部地区会員懇談会 (報告)
- 3 講演会 (要旨)  
「ミッション経営～真のリーダーとは?～」
- 4 Top Interview  
立山製紙 増田基由社長
- 6 労働指標
- 7 事業活動報告
- 8 委員会活動
- 11 講座・セミナー
- 12 参加者NOTES
- 17 見学会
- 18 会員の動き
- 20 おしらせ・事業予定

2018

12

# 東部地区会員懇談会



11月9日(金)、ホテルグランミラージュにおいて130名が参加して、東部地区会員懇談会を開催した。

第1部の講演会は、㈱リーダーシップコンサルティング代表岩田松雄氏(元スターバックスコーヒージャパンCEO)を招き、「ミッション経営～真のリーダーとは?～」と題して講演頂いた。(講演要旨は3頁掲載)

第2部の懇親会では、米屋副会長が「11月上旬に県内各地で開催されたねりんピックでは、60歳以上の方々の活躍を目の当たりにすることができた。中小企業では、働き方改革や生産年齢人口の減少で雇用の確保は非常に困難で予断を許さない状況が続くが、経営者協会の事業活動をぜひ活用してほしい」と開会挨拶を行った。続いて、来賓の山崎副知事より「北陸新幹線開業と国の地方創生戦略の2つの追い風を最大限に活かしながら、経済界の方々と連携を図り、富山県の新時代にふさわしい重要課題、AI・IoT・ロボットなど第四次産業革命や生産人口の減少などに対応した生産性向上策など、富山県のさらなる発展を目指していきたい」と挨拶があった。



米屋副会長



山崎副知事



金岡会長



稲垣相談役

金岡会長が「免振ダンパーの検査データ改ざんという企業の不祥事がまた発生した。その場しのぎの言い逃れがはびこる社会、真実が覆いかぶさる社会にはしたくない」と挨拶して乾杯し、和やかな歓談が続いた。稲垣相談役が「第四次産業革命、Society5.0などで経営環境は変わっていくが、企業の更なる繁栄はネットワーク、人と人とのつながりである」と中締めを行い散会した。

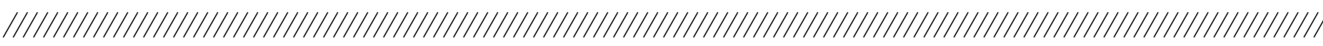
## //// 会長・副会長会議 //////////////////////////////////////

11月9日(金)、ホテルグランミラージュで会長・副会長会議を開催し、来年の予定を確認した。

①2019年のスケジュールは、3月8日(金)に富山電気ビルで「幹事会・理事会」、4月22日(月)に「理事会」、5月21日(火)ANAクラウンプラザホテルで「第74回定時総会」、7月5日(金)「会

長・副会長会議」と「西部地区会員懇談会」、7月12日(金)に石川県で「北陸三県+長野県経営者協会正副会長会議」、9月20日(金)「理事会」と「富山地区会員懇談会」、11月8日(金)「会長・副会長会議」と「東部地区会員懇談会」を開催することが確認された。②2019年「新春互礼会」は1

月4日(金)に当協会が幹事となり、当協会、富山県商工会議所連合会、富山経済同友会、富山県商工会連合会、富山県中小企業団体中央会の県内経済5団体でANAクラウンプラザホテルで開催することが報告された。



## 「ミッション経営」～真のリーダーとは？～

株式会社リーダーシップコンサルティング

代表 岩田 松雄 氏

(元スターバックスコーヒージャパン CEO)



日産自動車、経営コンサルタントなどを経て、ゲーム会社、化粧品販売会社（ボディショップ）、スターバックスの3社で社長を通算8年間経験した。企業経営にとって大事なことはミッションだと思う。ミッションとはつまり企業の存在理由である。

### I ミッション

・企業は何のために存在するのか  
ボディショップの社長をしていた時に「企業は事業を通じて世の中を良くするためにある」と気付いた。つまりミッション、存在理由、使命感である。

リーダー（経営者）にとって大切なことは「ミッション、ビジョン、パッション」と言われるが、一番大切なのは「ミッション」。使命感があるから将来へのビジョンが見え、パッションを持てる。よく似た言葉「経営理念、ビジョン、バリュー」などでもよい。

・ミッションはなぜ大切か

経営戦略は環境変化に応じて変える必要があるが、ミッションは原理原則であって、そう変えなくてよい。会社には色々な価値観の人がいるので、共通の目標が必要。ミッションを高く掲げると、価値観に共鳴した人が集まってくる。

スターバックスではスタッフのほとんどがアルバイトだが、ミッションを理解しているから接客が良く、辞める人も少ない。教育投資ができ、理解がより深まり良い

循環になる。ミッションがモラルを上げるのである。

・個人のミッション

ミッションは、人生においても必要なものと思う。「好きなこと」「得意なこと」「何か人のためになること」の重なる部分がヒントになる。

今の私にとってのミッションは教育。もともと偉人伝や伝記が好きだったこと、経営者を実践したこと、その経験を本や講演会で人のために伝えている。この3点があることで継続できている。

ミッションは進化させて良い。自分は何のために働いているのか、何故ここにいるのか。自分がこの世に生かされている理由（使命）を考え続けることが大切だ。

### II スターバックスの事例

スターバックスには、コーヒーの入れ方などのマニュアルはあるが、サービスマニュアルはない。その代わりに「Just Say Yes!」という言葉がある。自分の存在理由、お店の存在理由を考え、お客様のために良いことをするという。存在理由とはミッション。

「何を」ではなく「なぜ」するかを考える。「何を」するかは、お客様に近い人が一番よく分かるので、ミッションに従って考えて行動してもらう。

私は3社で社長をしている8年間、「社長からの手紙」を書き、社内・店舗へ発信し続けた。その

メッセージを実行したアルバイトがいる。スターバックスの前で交通事故を起こした人に、「コーヒーを飲んで落ち着いてください」と1杯渡した。「交通事故があったら、コーヒーを無料で出す」なんてマニュアルにない。ミッションを言い続けた結果だ。

スターバックスは新しい産業だとよく言っていた。製造業でもサービス業でもない、感動を提供する。ルールやマニュアルのない、ミッションに従うことで、お客様の期待を超える商品やサービスを提供する5次産業なのだ。

### III リーダーとしての心構え

リーダーに求められるものは、「高い志」会社の成長と共に自分自身、経営理念（ミッション）も一緒に成長させることが大切。

「徳を高める努力をする」、「無私の心を保ち続ける」、「素直さを持つ」、「範を示す」。「恨みに任ずる覚悟を持つ」リストラは恨まれるが、やらなければならない時もある。「後継者を育てる」。「意中に人あり」相談できる人を持つ。

最後にニーチェの言葉を紹介する。『どこから来たのか』ではなく、『どこへ行くか』が最も重要で価値のあることだ。……夢を語るだけで、何もしなかったり、そこそこの現状に満足してとどまったりするな。絶えず進め。より遠くへ。より高みを目指せ。

## 環境経営で次の100年へ 収益改善会議を社内に浸透

立山製紙株式会社  
代表取締役社長

増田 基由 氏



今年創立100周年を迎えられました。沿革を教えてください。

1918年、地元有志の方々が地域の産業振興のため五百石駅そばに、農家から出る稲わらを原料にして板紙製造の会社を設立しました。創業当初は経営が安定しない時期が続き、稲わらから出火して工場が全焼するなど幾多の困難がありました。株主や住民の皆様を支えられました。1950年代の労働争議には、当時の町長さんに調停に

入ってもらったと聞いています。

100周年事業の1つとして、地域への感謝を込めて立山町に寄附をしました。また、当社の紙を使った書籍や学習まんがなども図書館や小中学校に寄贈しました。

**関東にも工場進出しておられます。**

戦後の1949年に、大きな需要のある東京に工場を建設し、紙管製造を始めました。紙管はテープや工業製品などの巻き芯に利用され、経済活動が活発になる中で売り上

げを伸ばし、東京に拠点を置いたことで、板紙の販売拡大にもつながりました。現在の売上比率は板紙4、紙管6の割合です。

**グループの立山紙工には4工場を開設されています。**

紙管はかさばるのでストックできず、運送効率も悪いので、お客様の近くに展開してきました。1970年に東京事務所内に立山紙工(株)を設立し、現在、静岡県、茨城県、神奈川県で操業しています。

用途は、様々な製品に使われ、製品の種類や材質によって、強度や表面形状などが全部違います。時代のニーズに細かく応え、地域でしっかりと供給体制を整えることで、お客様との関係を強いものにしてきました。1日に数回納品している得意先もあります。

紙管の中でも電子部品メーカー向けに、端子を巻き取る紙リールが大きく伸びました。静岡工場の取引先が掛川市に移転したのを機に、2013年掛川工場を新設、業績に貢献しています。掛川工場ではリール部門をさらに別会社にして、お客様に対応しています。

関東の4工場と協力会社への委託製造により、青森県から愛知県を商圏としています。

### －多能工化を図る－

近年、人材不足が顕在化していますが、対策はどうされていますか。

来年の新卒採用については募集通り採用できており、多能工の育成にも力を入れています。抄紙機、合紙機、紙管製造、ボイラー、排水処理設備と様々な工程があり、できるだけ多くの工程を経験できるように、人員配置しています。人手不足対策だけでなく、日常のリスク管理にもなり、経営の安定につながると考えています。

女性の登用については、今年、東京本部に初の女性総務課長が誕生しました。

**人材育成はいかがされていますか。**

バブル崩壊以降、製造業の海外移転が進み、国内の仕事が減りました。その頃から各セクションを回って、若いスタッフも含めて問題点やコスト削減について徹底的に話し合いました。

このスタイルは現在も「収益改善会議」として継続しています。役員、部長クラスだけの会議だけでなく、工場ごと、セクションごとで、機械単位での問題点や効率化についてしっかり話し合うことで、方向性を現場に浸透させていきます。収益力の向上と同時に、社員教育にも役立っています。

**2014年にBCP（事業継続計画）を策定しておられます。**

東日本大震災の時には日本全体のサプライチェーンが機能しなくなり、立山紙工では茨城工場の屋根の一部が破損しました。危機感を抱き、東京都の指導を受けながら、関東の4工場の連携を基準に地震発生時の対策を作り上げました。本社でもBCP策定に向けて委員会を立ち上げていますが、製紙工場は本社工場だけなので試行錯誤しています。



今年の創立記念日(4月26日)に本社従業員と

**—環境・情報対策で差別化—  
環境対策にも積極的に取り組まれています。**

本社の製紙部門では排水や廃棄物の処理を徹底し、環境のISO 14001も取得しています。製紙工程で必要な蒸気を発生させるボイラーも2013年に、建築廃材などを燃料とする木質チップバイオマスボイラーを導入し、CO<sub>2</sub>排出量の削減を図っています。重油使用量は6割の削減に結びついています。**今後の展望を教えてください。**

紙管は地域ごとのお客様の細かいニーズに対応し、新しい商品にも挑戦して、満足度の高い商品提供を続けていきます。

本社の製紙部門については、板紙を表紙に使った装丁本が少なくなるなど需要が減っています。国内の板紙製造会社は最盛期には44社あったのが、現在は9社になりました。生き残った中でも、お客様に喜んでもらえる品質の高い商品提供をしたいと思います。

その1つとして昨年、板紙製品に関してFSC®のCoC認証を取りました。古紙原料から、製造・加工・流通過程が管理されていることに関しての、国際的な森林認証制度です。もともと当社は古紙を

原料としており、環境意識の高まりを背景に、FSC®森林認証紙の要求も増えています。東京の紙管事業でも取得の準備をしています。

一方、中国の紙需要の高まりにより、古紙の価格変動が激しく、原材料の確保に苦労しています。これまでも学校や地域の回収だけでなく、企業の書類回収も行ってきましたが、昨年情報セキュリティのISO27001を取得したことで、機密書類の処理に力を入れていきたいと考えています。

**座右の銘を教えてください。**

「和を以て貴しとなし、忤<sup>さか</sup>うることなきを宗とせよ」です。聖徳太子の十七条の憲法の最初に出てくる言葉で、喧嘩せずに話し合いで解決しなさいという主旨です。会話を通じて分かり合う、教育も怒鳴るのではなく、丁寧に教えた方が身につくでしょう。

#### — 略 歴 —

1950年4月生まれ。東京都出身。1973年学習院大理学部卒後、立山製紙(株)入社。2004年執行役員東京本部営業部長、2007年取締役、2009年取締役本社業務統括部長、2011年常務取締役東京本部長、2016年2月から代表取締役社長。関連3社の代表取締役も務める。

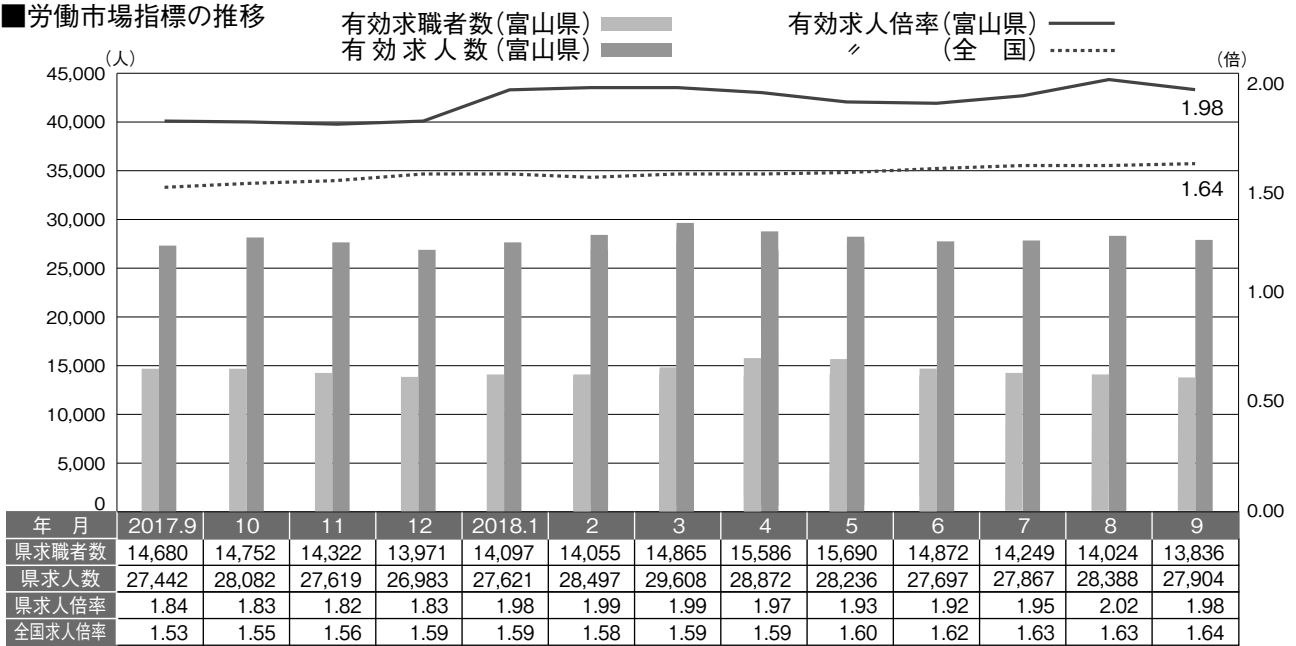
#### 会社概要

##### 立山製紙株式会社

創 業：1918(大正7)年4月  
所 在 地：中新川郡立山町五百石141  
資 本 金：8,500万円  
売 上 高：59億130万円(2017年11月期)  
事業内容：板紙製品(黄板紙、チップボール、紙管原紙)の製造販売、紙管、リールの販売  
従業員数：立山製紙(株)86名、グループ全体255名(2018年11月現在)  
事業所：東京本部  
関連会社：立山紙工(株)(静岡工場、茨城工場、相模工場、掛川工場)、立山物流(株)、立勝運輸(株)、日本リール製造(株)  
U R L：http://www.tateyamaseishi.jp

# 労働指標

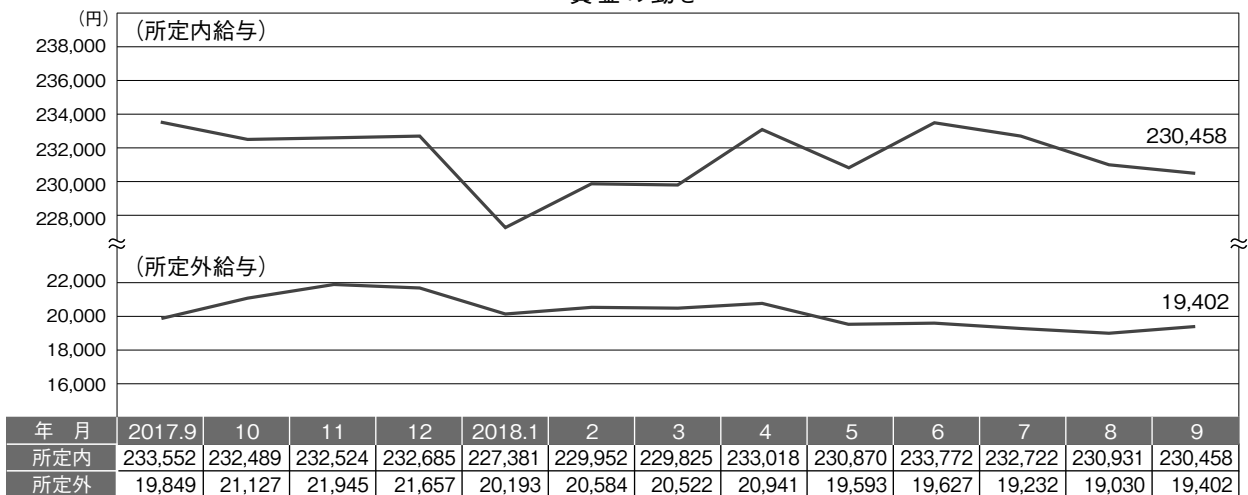
## 労働市場指標の推移



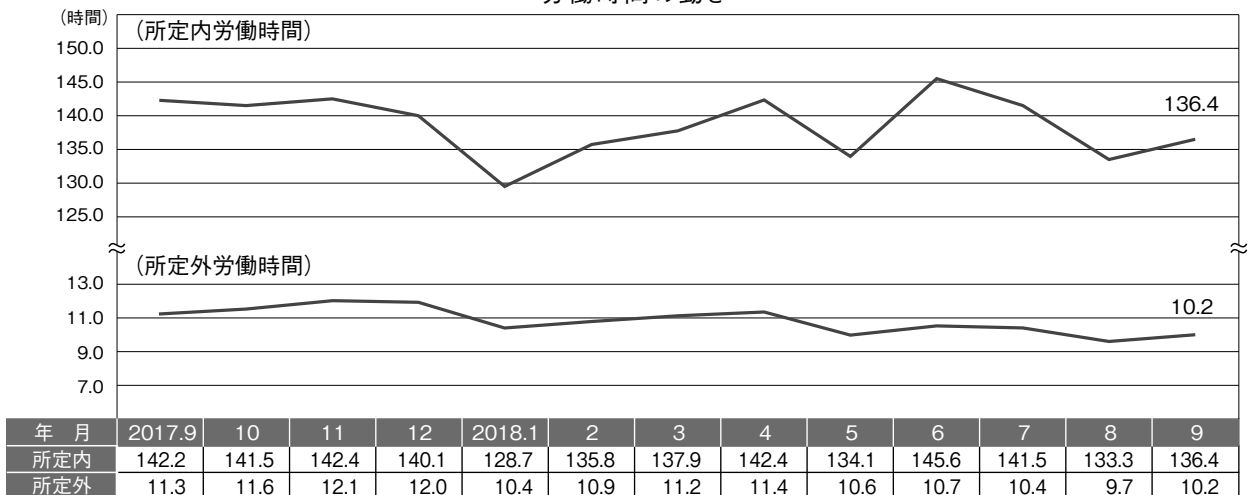
出典：富山労働局「労働市場月報」[https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei\\_toukei/shokugyou\\_shoukai/toukei.html](https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html)

## 賃金・労働時間の動き(調査産業計、事業所規模：5人以上)

### 賃金の動き



### 労働時間の動き



出典：とやま統計ワールド「毎月勤労統計調査 地方調査月報」<http://www.pref.toyama.jp/sections/1015/lib/maikin/index.html>

# 事業活動報告

2018年10月11日～12月11日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加人数
議	経営企画・IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	11月 2日(金)	富山経協・研修室	10名
	品質管理委員会「幹事会」	品質管理	11月12日(月)	コーセル(株)	11名
	教育委員会「幹事会」	教 育	11月16日(金)	富山経協・研修室	8名
	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	11月20日(火)	111ビル3階会議室	6名
	環境委員会「幹事会」	環 境	11月22日(木)	111ビル3階会議室	9名
	教育委員会「定例委員会」	教 育	12月 4日(火)	富山経協・研修室	16名
	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	12月 5日(水)	富山経協・研修室	26名
会員交流	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	12月 7日(金)	富山経協・研修室	18名
	東部地区会員懇談会		11月 9日(金)	ホテルグランミラージュ	130名
	会員交流ボウリング大会	総務交流	11月22日(木)	富山地铁ゴールドンボウル	128名
見学会	婚活支援イベント	総務交流	12月 9日(日)	日本海ガスショールーム	16名
	品質管理委員会「県外企業見学研修会」	品質管理	10月23日(火)～24日(水)	サンデンホールディングス(株)赤城事業所 グローリー(株)埼玉工場	15名
	環境委員会「県内企業見学会」	環 境	11月13日(火)	(株)能作、若鶴酒造(株)	15名
講座・セミナー	総務交流委員会「県内企業見学会」	総務交流	11月15日(木)	ショウワノート(株) (株)プレステージ・インターナショナル	18名
	改善力養成セミナー～業務改善・基礎編～	教 育	10月12日(金)	富山経協・研修室	37名
	管理職マネジメント研修	教 育	10月16日(火) 11月13日(火) 12月11日(火)	富山経協・研修室	21名
	労務管理実務講座	人事・労務政策	10月17日(水)・24日(水) 11月 5日(月)・12日(月)	富山経協・研修室	23名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	10月18日(木) 11月 1日・15日・29日(木)	富山経協・研修室	25名
	若手社員実践コース	教 育	10月23日(火)	インテック大山研修センター	42名
	会議の生産性を向上するビジネス・ファシリテーター養成講座	教 育	10月25日(木)	富山経協・研修室	27名
	次世代経営者育成セミナー ～ひと・しごとと未来創生塾～	経営企画・IT	10月30日(火) 11月30日(金)	富山経協・研修室	9名
	管理職基礎コース	教 育	11月 6日(火)・7日(水)	富山経協・研修室	46名
	5Sと目で見る管理実践セミナー	品質管理	11月14日(水)	富山経協・研修室	29名
	ヒューマンエラー対策講座<実践編>	品質管理	11月20日(火)・21日(水)	富山経協・研修室	35名
	ものづくり女性社員のための改善力向上セミナー	品質管理	11月27日(火)	富山経協・研修室	30名
	労働法実務講座(第3回)	人事・労務政策	11月28日(水)	111ビル2階会議室	29名
	業務仕組み化セミナー	教 育	11月28日(水)	富山経協・研修室	18名
	業務効率化研修	教 育	12月 4日(火)	富山経協・研修室	42名
働き方改革の原点～労働生産性向上取り組み事例～	人事・労務政策	12月 5日(水)	富山経協・研修室	47名	

総務交流委員会

■会員交流ボウリング大会

11月22日(木)、富山地铁ゴールデンボウルで開催した。平日の夕刻時間にもかかわらず、32チーム128名の参加者を迎えることができた。

参加者最年長の(株)チューエツ立浪定雄さんによる始球式の後、一斉に競技が開始され、各チーム和気あいあいとした雰囲気の中で熱戦が繰り広げられた。

1 フレーム毎に左右のレーンで交互に投球する「アメリカン方式」を採用したため、隣レーンのチームとの交流が深まり、ストライクやスペアの際のハイタッチが随所に見られ、大きな歓声がホールに響き渡っていた。

ゲームは1チーム4人の2ゲーム合計スコアで競う団体の部と、一人ひとりの2ゲーム合計スコアで競う個人の部で行われたが、女性と男女問わず65歳以上には1ゲーム20ピンのハンディを適用した。

主な成績は下記の通り。団体の部は武内プレス工業(株)チームが優勝した。個人の部はアイシン軽金属(株)の保田利博さんが優勝した。表彰式では、自社参加チームの応援に駆けつけた総務交流委員会副委員長の北日本放送(株)島谷浩司取締役社長室長に各賞のプレゼンターを務めていただいた。



団体優勝の 武内プレス工業(株) チーム



個人優勝の保田さん

<上位成績>

(団体の部)	会社名	(個人の部)	氏名
優勝	武内プレス工業(株)	優勝	保田 利博 (アイシン軽金属(株))
準優勝	アイシン軽金属(株)	準優勝	朝野 裕貴 (株富士薬品)
3位	社会福祉法人 わかば福祉会	3位	栗原 一男 (富山電気ビルディング(株))

■第9回婚活支援事業

12月9日(日)、日本海ガス(株)シヨールーム P r e g o で、通算して9回目の婚活支援事業「おもてなしイタリアン料理教室&ランチパーティ」を、男性10名、女性6名、合計16名の参加者を得て開催した。

第1部の料理教室では、富山市総曲輪イタリアンバル ベオーネの畑林啓一シェフを講師に招き、男性3~4人と女性2人ずつの5~6人1組でイタリアン料理に挑戦。料理の腕に覚えのある方、

そうでない方が入り混じって和気あいの雰囲気の中、チームごとに3品が完成した。出来上がった料理を全員で試食し、食事中も料理談義に花が咲いていた。

第2部は歓談を中心としたパーティを実施。3回の席替えタイムを設けて参加者同士の素敵な出会いを演出した。積極的にアプローチカードを活用している男性や、女性同士で意気投合し、アプローチカードを交換している姿も見受けられた。

結果としては、カップル成立0

組であったが、参加者は美味しいイタリアン料理とパーティを楽しみながら素敵な時間を過ごした。





## 人事・労務政策委員会

### ■ 幹事会

11月20日(火)、八十島委員長はじめ副委員長、幹事6名が出席して、タワー111ビル3階会議室で開催した。

八十島委員長の挨拶後、事務局より2018年度事業の経過報告を行い、今後の事業予定として2月定例委員会では大学等との情報交換会を行う。2019年度事業計画(案)として、各定例委員会においては

経団連などから講師を招いた講演会や企業見学会等を実施すること、人事・労務管理セミナーについては、協会テーマと委員へ実施したアンケート結果を参考に、第1回は「ダイバーシティマネジメント」、第2回は「賃金制度・人事制度(評価)」を実施する、研究部会活動は労働法関連法制研究部会およびメンタルヘルス部会の活



動を継続することを、12月定例委員会に諮ることを決定した。

### ■ 定例委員会

12月5日(水)、定例委員会に併せて富山県との共催による講演会を、富山経協・研修室で開催した。

第一部は、八十島委員長はじめ47名が出席して、「働き方改革の原点～労働生産性向上取り組み事例～」と題し、(公財)日本生産性本部主席経営コンサルタントの中間弘和氏に講演を頂いた。(関連記事14頁掲載)

第二部は、委員長をはじめ委員26名が出席して、定例委員会を開催した。

八十島委員長の挨拶後、事務局より2018年度事業活動について報告し、今後の予定として2月定例委員会は大学等との情報交換会を実施、労使交渉セミナーは2月5日、労働法実務講座は2月13日に開催することを確認した。

続いて、2019年度事業計画(案)について、定例委員会は年4回の開催とし、働き方改革や法改正に関連した講演会や企業見学会を企画する、講座については事務局案に沿って開催する、研究部会



については労働法関連法制研究部会、メンタルヘルス部会の活動を継続することが、審議の上承認された。

## 経営企画・IT委員会

### ■ 定例委員会

11月2日(金)、牧野委員長はじめ委員10名が出席して富山経協・研修室において開催し、2018年度事業実績報告及び2019年度事業計画(案)について審議を行った。

牧野委員長の挨拶後、事務局より2018年度の事業活動の「すぐに始められる健康経営導入セミナー」と、10月30日から開講した「次世代経営者育成セミナー」の中

間報告をした。卒塾式に定例委員会を追加開催し、2019年度事業計画を審議することを検討した。

また、2019年度の協会テーマおよび経営課題調査のテーマについて、委員から意見をいただき、審議した。

次回委員会は2019年3月1日(金)に開催し、2019年度事業計画について審議する。



### 品質管理委員会

#### ■ 幹事会

11月12日(月)、谷川委員長はじめ幹事11名が出席して、コーセル(株)3階会議室で開催した。

谷川委員長の挨拶、2018年度事業活動報告を行った後、2019年度の事業計画について審議した。委員会活動については、定例委員会を9月と12月はグループディスカッション形式、7月と2

月は見学会形式を基本に、4月の幹事会で検討すること、講座・セミナーについては会員サービス向上を目的に新講座「変化点管理の考え方・進め方セミナー」を開催することなど、事業計画(案)について12月の定例委員会で諮ることで承認された。



#### ■ 定例委員会

12月7日(金)、谷川委員長はじめ委員18名が出席して富山経協・研修室で開催した。

谷川委員長挨拶の後、2018年度の事業活動報告と2019年度の事業計画について審議した。2018年度は前年度に引き続き、定例委員会でのグループディスカッション、委員企業見学会の実施や講座の担当委員制実施等に取り組んだ。また、講座・セミナーでは、開講した11講座について募集人員を上回る講座も多く、順調に

推移していることが報告された。

2019年度の委員会活動は、基本的には2018年度を引き継いで進めていくこととし、具体的活動内容は4月の幹事会で検討すること、講座・セミナーは新講座「変化点管理の考え方・進め方セミナー」を開催することなど、事務局案で承認された。

最後に4班に分かれ、「方針管理(日常管理含む)のあり方/進め方における問題・課題とその対



応策」をテーマに、活発なグループディスカッションを行った。

### 環境委員会

#### ■ 幹事会

11月22日(木)、尾島委員長はじめ幹事9名が出席して、タワー111ビル3階会議室で開催した。

尾島委員長挨拶の後、2019年度の事業計画案について審議した。2018年度活動の課題は、委員の参加率向上や、「ISO14001内部監査員養成講座」の参加企業が固定化していることなどが挙げられる。国内では、国際目標のSDGsに

向けた環境意識の高まり等から環境経営の重要性が日々増している。事前に幹事へアンケート調査を実施し、2019年度の事業活動について情報交換を行った。来年度の定例委員会のテーマや、県内・県外企業見学会の実施先の候補、環境保全活動の内容、「省エネ経営」を推進する担当者を対象とした新講座を実施することなどにつ



いて、12月12日(水)の定例委員会で諮ることが承認された。

## 教育委員会

### ■ 幹事会

11月16日(金)、松原委員長はじめ幹事8名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

松原委員長挨拶の後、2018年度事業報告を行った。次に、2019年度の定例委員会の活動内容について審議した。定例委員会6月・8月・12月・2月のうち、教育制度

見学会を6月と2月に開催し、残り2回は「管理職」に焦点をあてた活動をするなど、事業計画(案)については12月の定例委員会で諮ることが承認された。



### ■ 定例委員会

12月4日(火)、定例委員会に併せて勉強会を富山経協・研修室で開催した。

第一部では、松原委員長はじめ42名が出席して、(公財)日本生産性本部 主席経営コンサルタントの三枝久芳氏を講師に招き、労働生産性向上について学ぶ勉強会「業務効率化研修」を開催した。(関連記事14頁掲載)

第二部では、松原委員長はじめ16名が出席して、定例委員会を開

催した。松原委員長の挨拶後、事務局より事業実施報告として、定例委員会の活動内容と講座・セミナーの受講状況について説明した。次に2019年度の定例委員会は、管理職の働き方改革につながる勉強会をすること、講座・セミナーについては今年度参加人数の多い講座については複数回の開催をすること、新講座として「ハラスメント防止セミナー」を開催することが審議の上、承認された。



次回の定例委員会は、2月27日(水)YKK(株)の教育制度見学会と併せて行うことを報告した。

## 講座・セミナー

### ■ 若手社員実践コース

10月23日(火)、42名が参加して、インテック大山研修センターで開催した。

本研修は、社会人生活5年程度の若手社員を対象に、自身で論理的に物事を思考することができ、課題を発見できる「考え抜く力」と「周囲に働きかけ実行する」コミュニケーション力を学ぶことを狙いに今年度新たに企画した。

講師の(公財)日本生産性本部

風土改革コンサルタント石川歩氏が、論理的思考力および問題解決ステップと技法について、具体的に手順とポイントを解説した。ケーススタディでは学んだポイントと業務改善のケースを結びつけ、課題解決の手順、問題解決のステップ、問題解決プロセス(業務改善)を確認するとともに、コミュニケーション力の向上とチームワークのポイントを学んだ。異業種の参加者との討議となった



が、テーマを「飲食店の業務改善」と身近なものに設定したことで、活発な議論が行われた。

■管理職基礎コース

11月6日(火)・7日(水)、46名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

本研修は、部下の能力開発や能力を発揮させるポイントや、部下が自ら考えて動けるチーム作りのノウハウ習得をねらいとした。

講師の(公財)日本生産性本部首席経営コンサルタント中間弘和氏が、①管理者の役割と要件、②業績向上のマネジメント、③部下育成のマネジメント、④組織力強化のマネジメント、⑤変革と推進のリーダーシップについて、具体的事例や自身の体験談を交えて解説した。

グループディスカッションでは、部下の育成について、目標管理や人事考課の目的と仕組みを確認するとともに、VTRのケースを用いて部下指導のあり方や部下とのコミュニケーションを検討した。また、他社の管理職社員と取り組むことにより、相互啓発・人脈づくりに繋がった。

受講者からは、「管理職のあり方を再認識できた」「テキストのみでなく、講師の事例が豊富で、参考になった」などと好評の声が伺えた。



参加者NOTES

「管理職基礎コース」を受講して

株式会社 上智  
設計計測部 設計課 課長 松本 敏昌



課長職以上を対象とした2日間のセミナーに参加し、管理職とは何をすれば良いのか、講師の経験談を交えた分かり易い説明を聞き、非常に勉強になりました。そして改めて管理職の役割について再認識いたしました。

セミナーでは、参加者46名を基本6名ずつに班分けし、テーマ毎にグループで意見を交換し、それぞれ発表するといったものでした。各グループは意図的に、業種・世代・性別が異なるように組まれており、話し手・聞き手・まとめ役と、管理職としての総合的な研修も兼ねているなど感じました。

管理職の役割の1つに「部下の育成」があります。私はこれが一番重要な役割であると思います。とにかく“やらせてみる”(発掘)、できない人をできる様にすることが、使命でもある。そして積極的に声をかけ、気にかけることを心がけて接することをこの講習で再確認いたしました。

印象に残ったのは「コーチング」です。これは、本人の個性をつぶさないように、自ら考え行動できるように育てるということです。このセミナーでコーチングの考え方を知り、今まで私がなんとなく実践していたような、いなかった

ようなボヤっとした感覚でいたのが、講習を聴いて不足な点があったなと確認できました。

大事なのは積極的な「傾聴」です。話しやすくなる状況を作り出し、相手の気持ちを察し、認め、支える。上司は自分の意見を押し付けがちになります。仕事を進める主役は部下であり、いかに成果を上げられるかの条件整備は管理職の仕事です。個人個人の考え方には多様性があることを受け入れ、相手の話をまず“聴く”ことを心がけ部下の指導に当たりたいと思いました。

最後に、本講習会は色々な業種・立場の方と丸2日話し合うことができ、ほかの人がどのように考えているかを知ることができ、非常に有意義でした。会社が求める理想の管理職になれるよう、これからも努力していきたく思います。

■改善力養成セミナー

～業務改善・基礎編～

10月12日(金)、37名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

日本HR協会KAIZEN事業部「創意とくふう」編集人の東澤文二講師は、手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が大切であると力説し、問題

の裏返しや見える化などの改善の方程式・定石・公式について、工場や店舗などの様々な事例を通して学ぶとともに、改善メモを短時間で作成する実習も行った。また、改善力・指導力をつけるには、改善事例と定石の組み合わせの大量蓄積が重要であり、まずは職場で実践してみることが重要であると



した。

■会議の生産性を向上する

ビジネス・ファシリテーター  
養成講座

10月25日(木)、27名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

本研修は、会議におけるファシリテーションのスキルとマインドを理解し、自社の会議やプロジェクトの進行役としての役割を果たせる人材を育成することを狙いに

今年度新たに企画した。

講師の寺沢俊哉(公財)日本生産性本部主席経営コンサルタントは、ロールプレイ実習を用いて、①「対話の基本」のスキル、②会議を企画する「しこみ」、会議を進行する「さばき」のポイントを伝え、③わが社の会議の見直しについて、具体的なポイントを挙げて解説した。グループに分かれて活発



に実習し、最後に実例を学び、会議について見直した。



参加者NOTES

「会議の生産性を向上する  
ビジネス・ファシリテーター養成講座」  
を受講して

社会福祉法人わかば福祉会  
石金こども園

大場 愛己



今回、円滑かつ生産性のある会議を進めるための技術を、グループワークを中心に学びました。会議を見直す10の質問をチェックし、自分の職場会議を見直すポイントを確認しました。報告のみの会議になっていないか、結果や成果を感じられる会議になっているか、疑問を持ちながら参加しているかという意見があり、会議の進め方や参加の仕方についてどのように改善していけばいいのかという声も多く聞かれました。

講座は、悩みや問題点を確認し

ながらコミュニケーションを取り、楽しく参加させていただきました。「誰も会議の技術を体系的に学んでない！だから、会議がうまく進んでないと感じても大丈夫！」その一言から始まり、会議は会社の縮図であり、一人ではできない。いろんな業種の方がいて、それぞれの役割がある。そのため、会社によって会議の仕方は違うということをグループワークの中で知ることができました。

会議とは、その場を活性化させ、みんなで力を合わせ隣同士の助け

合いでうまく進んでいく。そして、進めていく中で、ゴールとルールを明確にしていくことで意味のある会議の道筋ができる。そして、ファシリテーターがコミュニケーション力やコーチング力を発揮し、対話することでチームワークをいかした協働作業として会議が進み、さらにファシリテーターが整理支援していくことが大切であると学びました。

模擬会議では、進行役の人はわかりやすく会議の趣旨を話し、一人ひとりが会議に参加する意義を持つということが大事であることを学びました。

今回の講座に参加して、それぞれの役割を発揮できるような会議のあり方を考え、自園会議の有効かつ活性化を図れるように見直していきたいです。

### ■ ヒューマンエラー対策講座 ＜実践編＞

11月20日(火)・21日(水)、35名が参加して富山経協 研修室で開催した。

講師の(公財)日本生産性本部 主席経営コンサルタント 矢島浩明氏は、「人はエラーをするもの」であることは不変であり、現状でも絶対的対策は困難と考えられていることから、日常的な活動を通じて意識を高め、維持していくこ

とが大事であるとして、安全管理の基礎知識やヒューマンエラーの分類と防止対策について講義した。

ケーススタディでは「安全管理とヒューマンエラー」、「原因追求と再発防止」、「不良率低減とヒューマンエラー防止」「自社のヒューマンエラーについて考える」の4つのテーマでグループ演習を行い、業種も立場も違う受講者たちが、共通のテーマでお互い



に気づき、学び合うことで活発な議論が行われた。

### ■ 働き方改革を推進する 業務仕組み化セミナー

11月28日(水)、業務の生産性向上・働き方改革を推進する担当者18名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

日本のサービス産業の労働生産性は特に低いと言われ、生産性向上が喫緊の課題であることから今年度より本セミナーを新設した。

(公財)日本生産性本部コンサル

ティング部主任経営コンサルタントの鍛治田良氏を講師とし、業務基準書を作成する手順について、①仕事の棚卸、②業務分析、③業務評価、④業務基準書の記述方法の4つのステップで、業務仕組み化を学んだ。働き方改革は「従業員のためではなく、企業のため」とし、マニュアルと業務基準書の違いや、他社の事例を交えながら一つひとつの作業を「何のために」



するのかを丁寧に説明した。後半の演習では、実際の作業を映像で確認し、グループで作業基準書を作成するワークを行った。

### ■ 業務効率化研修

12月4日(火)、職場リーダー、中堅社員42名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の(公財)日本生産性本部コンサルティング部主任経営コンサルタント三枝久芳氏は、働き方改革に関する環境変化を説明し、業務効率化の事例を多数紹介した。

また、労働生産性の着眼点として①意識の問題、②仕組みの問題、③能力の問題の3点から業務効率化についてアプローチした。業務効率化の手法の一つとして、誰でも簡単に出来る「巻紙分析」を用いて現状の業務を可視化する手法を学び、改善の糸口を探る手掛かりをつかんだ。



### ■ 働き方改革の原点 ～労働生産性向上取り組み事例～

12月5日(水)、人事・労務政策委員会と富山県との共催により、会員企業から47名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

本セミナーは、講師に(公財)日本生産性本部主席経営コンサルタント中間弘和氏を招き、働き方改

革の原点に戻り、生産性の向上を図る取り組み等について、事例を交えながらわかりやすく学んだ。キーワードとして、チームワーク、無駄の排除、繁閑格差等があり、また、グローバルな視点でのアドバイスもあった。最終的には、トップの本気度等の重要性を改めて強調し、しめくくった。



## 品質管理

### 実践しながら学ぶ

#### 統計的手法活用講座

5月24日(木)から富山経協・研修室において開講した「第62回実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」は、11月29日(木)に14日間の全日程を終えて閉講した。

この講座は、企業の体質改善を進めるために重要な役割を担うスタッフ・技術者を対象に、問題解決に必要な統計的品質管理(SQC)手法を学び、自職場での問題解決を図るべく、その実践的な活用法を習得することをねらいとする。上司とキャッチボールのうえ職場の身近な問題をテーマに選定し、グループ別にカウンセリングを受けながら品質管理手法を駆使して

問題解決に取り組み、その内容を研究論文にまとめて提出することが修了基準の1つとなっている。

最終日の29日には、先に開催された論文審査会で講師より推薦を受けた優秀論文3件の発表の後、受講者24名が修了証を手にした。また、講座全体を通して総合評価上位の3名が優秀賞を受賞した。

- 〈優秀論文〉 上田貴樹さん(コーセル株)  
碓井良太さん(中越合金鋳工株)  
中野彰則さん(日本カーボン(株)富山工場)
- 〈優秀賞〉 山本貴之さん(コーセル株)  
上田貴樹さん(コーセル株)  
野口 拓さん(コーセル株)

#### 〈講師派遣等のご協力企業〉

アイシン軽金属株、コーセル株、サンエツ運輸株、(株)タカギセイコー、中越合金鋳工株 ほか



### 参加者NOTES

#### 「実践しながら学ぶ 統計的手法活用講座」を受講して

コーセル株式会社  
US開発部 US開発三課 山本 貴之



私は、直流安定化電源を製造・販売しているコーセルで開発部に所属しており、新製品の電源の設計、評価を担当しています。入社してからすぐに統計的手法を社内でする機会がありましたが、学んだ当時は実務経験が不足していたこと、学んでから活用するまでに年数が経ってしまったこともあり、今までうまく活用できていませんでした。最近ではQCサークルのリーダーも務めることとなり、後輩へ指導する機会も増えてきました。そこで、もう一度基礎から統計的手法を学び直し、自分自身のさらなるレベルアップ、後

輩への指導に役立てようと思い、受講しました。

講座では、品質管理の基礎知識やQCストーリーの考え方など、初めて統計的手法を学ぶ人にも分かりやすい講義から、検定、推定、分散分析法などの専門的で統計的な考え方には必要不可欠な講義まで、様々な業種の講師の方から実体験を交えて解説していただきました。分からない箇所はその場で質問する機会や、講義終了後にも対応していただき、講師の方には大変感謝しております。また、グループディスカッションや演習問題など、受講者が実際に考えたり、

手を動かしたりして参加できる工夫もたくさんされており、基礎から応用までを「楽しみながら」理解できる内容になっていたと思います。研究論文の作成については、社内で一番困っていたことをテーマとして、統計的手法を用いて実践的に学びました。

グループディスカッションを通して、講師の先生や他の受講者の方に様々な視点でアドバイスを頂き、無事に社内で慢性的に発生していた問題を解決することができました。また、他の受講者の事例を聞くことで、より統計的な考え方が身についたと思います。

今後は学んだ統計的手法を後輩やQCのサークルメンバーへの指導を通して、会社に貢献し、さらに本講義で学んだ知識を深めるため、QC検定1級にも挑戦したいと思います。

生産管理

■ 5Sと目で見える管理

実践セミナー

11月14日(水)、29名が参加して富山経協・研修室で開催した。

講師の(株)日本能率協会TPMコンサルタントの金子裕行氏は、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)は、5番目のS(躰)が活動の目的で、美しい習慣を身につけた人づ

くり・企業体質づくりであるとした上で、5Sを定着させるポイントとして、現場の状態が正常か異常か目で見てすぐ分かり、必要な手がすぐに打てる状態にする「目で見える管理」が重要であるとした。グループ演習では受講者同士が自職場の写真を持ち寄り、意見交換と改善案の討議を通じて5S活動



の進め方について理解を深めた。



参加者NOTES

「5Sと目で見える管理実践セミナー」を受講して

サンエツ運輸株式会社  
経営管理部

北島 孝太郎



本研修は5Sとは何か、その実践と企業での定着についての基本的な考え方を学ぶものでした。私自身、5Sについてはある程度理解しているつもりでしたが、実際どの様に実践していけばいいのかという所までには至っていませんでした。

前半は5Sとは何かを説明頂きました。「整理・整頓・清掃・清潔・躰」からなる5Sですが、定義やポイントを踏まえた上で改善例等を聞くと、改めて本質的な理解にまでは及んでいなかったのだなと

痛感しました。

特に印象に残ったのは5Sの一つ「清潔」に関しての話です。前の段階の3Sがなされている状態を維持することが本来5Sで定義づけられていますが、そこから派生して維持しやすい状態を作るという観点の「予防3S」という考え方は、単に5Sを一過性のものにせず定着させるという本質的な考え方は大変参考になりました。

後半は「目で見える管理」という観点から実例を踏まえ、改善の着眼点についてグループディスカッションを行いながら学びまし

た。「時間がかかる」「わかりにくい」といった普段の業務内で感じていることこそが簡素化・標準化を図るためのヒントがあることを知り、私も日頃からそういった点に目を配っていきたいと思いました。グループディスカッションでは社内で5Sを実践していくうえでの課題と改善案について討議しました。グループの中には実際に社内で5Sを推進している方、これから社内で5Sを定着させていきたい方など、業種はもちろん立場が異なる方との意見交換が出来たことが今後においても貴重な体験であったと思います。

5Sは最終的には品質管理や原価管理にも至る最も基本的な考え方です。そのことを念頭に置きながら、本研修で学んだ多くのことを活かしていきたいです。

■ものづくり女性社員のための改善力向上セミナー

11月27日(火)、ものづくり企業で働く女性社員30名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の高林のみ子(株)日本能率協会コンサルティングTPMコンサルタントは、改善活動は一過性ではなく体質改善が重要であると

したうえで、女性社員の活躍に必要な環境づくりや現場活性化の「仕掛け」・「仕組み」づくりについて、①改善活動概論、②生産活動の基礎知識、③5S活動の進め方、④改善活動の基礎知識を学び、グループ演習では不具合や改善の見える化の役割を担う、自主保全活動には欠かせない「エフ付け」につ



いて、実際の現場写真に付箋を貼って体験し学んだ。



## 労務管理

### ■労務管理実務講座

10月11日(木)から全5回開催した講座は11月12日(月)、23名の参加者全員が修了した。

第1回では、泉崎労務コンサルティングの松浦辰夫代表が、労務管理に関する法律および就業規則の重要性を解説し、労働問題への対応についてポイントを指摘した。また、働き方改革関連法の内容と対応についてもポイントを解

説した。

第2回、3回では、島崎裕美子社会保険労務士が労災・雇用保険実務および社会保険実務にかかる諸問題、企業経営で活用できる助成金について、第4回、5回では小股清香弁護士が労務管理上のトラブル未然防止、労働紛争への対応について解説した。

受講者はグループワークで事例について議論を交わしながら労務



管理にかかわる諸問題について学んだ。

### ■労働法実務講座(第3回)

11月28日(水)、「非正規労働者の処遇見直しへの使用者の対応策・留意点」をテーマに、29名が参加してタワー111ビル2階会議室で開催した。

第一協同法律事務所の伊藤昌毅弁護士が、①成立した働き方改革関連法および政省令・指針の内容、②正社員と非正規との賞与や諸手

当等の差異をめぐる裁判例、③非正規の処遇見直しへの対応策・留意点について解説した。

講義では、ハマキョウレックス事件、日本郵便事件などの裁判例を分析し、諸手当の整理、見直しなど賃金制度全体をどう見直していくか、非正規を正社員との関係でどのような労働力として位置づけていくか等、使用者側の今後の



対応について具体的な解説があった。

## 見学会

### 品質管理委員会

#### ■県外企業見学研修会

10月23日(火)～24日(水)の2日間の日程で、15名が参加して県外企業見学研修会を開催した。

初日は群馬県に赴き、サンデンホールディングス(株)赤城事業所を訪問した。同所では冷凍・冷蔵ショーケースや飲料自動販売機、コーヒー自動販売機などの製造を行っており、生産ラインは自由度が高く、生産するものに合わせてライン構成を見直すことができ、工場のスペース効率を高めた生産を行っていた。また、独自の小集

団活動SIMSに取り組み、改善活動を通じて活気に溢れた職場づくりを目指していた。

2日目は埼玉県に赴き、グローリー(株)埼玉工場を訪問した。同工場では金融機関向けの通貨処理機や情報処理機などの通貨関連機器の開発・製造を行っており、多品種変量生産の工場内では、ヒト型ロボット「NEXTAGE」が複数の組み立てラインに投入されており、人とロボットが分業により完成品を作り上げるフレキシブルな自動組立ラインを実現していた。



参加者は2日間の行程を通して、品質管理先進企業を実際に目で見て体感することができた。また、参加者間での情報交換も活発に行われ、有意義な見学研修会であった。

## 環境委員会

### ■ 県内企業見学会

11月13日(火)、尾島委員長ら15名が参加して「県内企業見学会」を開催した。

(株)能作では、会社概要等の説明を聞き、高岡の地に400年伝わる鑄造技術を受け継ぐ高岡銅器職人の技術を見学した。また、製造過程で使用する有機溶剤の見直し等、従業員の健康を考慮する環境への取り組みも行われていた。

若鶴酒造(株)では、北陸で唯一見学のできるウイスキー蒸留所である三郎丸蒸留所(昨年改修)を見学した。各製造工程では、独特のモーキーな風味を持つ麦芽(モル

ト)を使用するなど、諸所に強いこだわりが見られた。見学後は試飲をし、「美味しい酒を造りたい」という蔵人の思いが込められた酒を堪能した。



## 総務交流委員会

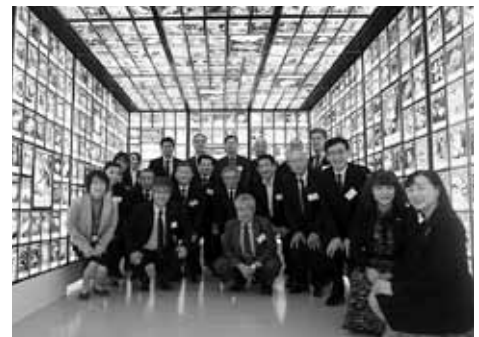
### ■ 県内企業見学会

11月15日(木)、武内委員長以下18名が参加し「県内企業見学会」を開催した。

ショウワノート(株)では、会社概要等の説明をビデオ鑑賞を交えて行われた。また、働き方改革等の取り組み状況の内容紹介もあった。その後、「学習帳製造ライン」や「ジャポニカ学習帳タイムトンネル」などを見学した。見学後、参加者から活発な質問があり、懇

切丁寧な回答を受けた。

(株)プレステージ・インターナショナルでは、「女性活躍推進」「働き方の追求」「福利厚生」等の全体の説明を聞いた上で館内を見学した。建物全景はクリスタルの形となっており、内部はタウン(街)のようであった。セキュリティ設備も整い、保育所も併設されており、従業員が働きやすい職場環境であると感じた。



## 会員の動き

(50音順)(敬称略)

### ■ 代表者の変更

#### サカ中産業株式会社

代表取締役社長 酒井 智俊(前:櫻井二郎)

#### 株式会社ほくつう 富山支社

執行役員支社長 田中由紀夫(前:宮川孝則)

#### 若鶴酒造株式会社

代表取締役社長 小杉 康夫(前:串田 茂)



表紙の花  
サザンカの花

(富山県中央植物園 中田政司)

### 冬に咲く貴重な花木

サザンカは山口県と四国、九州、琉球列島に自生するツバキの仲間で、江戸時代から多くの園芸品種が栽培され、その数は現在300種類に及ぶといわれています。野生種の花は白色で、花弁は6～7枚の一重咲きですが、園芸品では淡紅色から紅色のものや絞り模様のもの、八重咲きなど多様で、花の少ない冬に咲くことから貴重な観賞花木になっています。

サザンカは、2007年本誌でご紹介した中国原産のユチャ（油茶）に近縁で、白い単弁の花（写真）はそっくりです。サザンカの種子も絞ると良質の食用油が採れるため、九州地方では昔、油を採る目的で栽培されていました。

### サザンカの名前と花言葉

サザンカの名前は漢字の「山茶花」の音読み

「サンサカ」が転訛したものと考えられています。しかし、中国では「山茶」はツバキを指すことから、この漢字はよくないと、日本の植物学の父・牧野富太郎は述べています。ちなみにサザンカの中国名は「茶梅」です。

サザンカの花言葉は花の色によって異なりますが、「謙虚」、「愛嬌」、「永遠の愛」、「ひたむきさ」など。冬の寒さに耐えて咲く花をイメージしたものと思われま

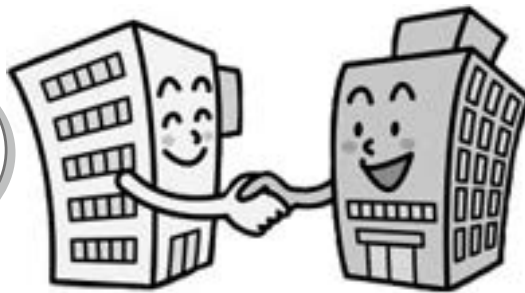
す。今年平昌オリンピック・パラリンピックのNHK放送テーマソングとして使われたSEKAI NO OWARIの「サザンカ」は、夢を追い続けることの大切さを歌った記憶に新しい曲です。一方、カラオケで親しまれているのは大川栄策の「さざんかの宿」でしょうか。



近縁なユチャ（油茶）の花 ▲

## 企業間の人材マッチングを支援しています。

人材が不足しており、  
補充を検討  
されるとき



人員に余剰感があり、  
雇用調整を検討  
されるとき

まっ先にご相談ください。



公益財団法人

企業間の出向・移籍の専門機関 1987年(昭和62年)設立

## 産業雇用安定センター

富山  
事務所

〒930-0857 富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま10F TEL 076-442-6900  
ご利用時間/9:00～17:00 (土・日・祝日は休み) FAX 076-439-2860

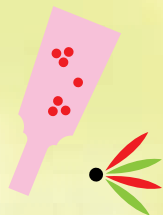
全国ネットの人材情報  
最新情報をお届けしています。

<http://www.sangyokoyo.or.jp/>

おしらせ

# 新春互礼会

(ご案内済み)



2019年 1月4日(金) 16時～17時30分

場 所： ANAクラウンプラザホテル富山 3階 鳳  
富山市大手町2-3 電話 (076)495-1111

石川県知事ならびに行政責任者の皆様をお招きして、県内経済5団体合同で開催します。

- ・(一社)富山県経営者協会 ・富山県商工会議所連合会 ・富山経済同友会
- ・富山県中小企業団体中央会 ・富山県商工会連合会

# 幹 事 会

(別途ご案内申し上げます)

2019年 3月8日(金) 16時30分～

場 所： 富山電気ビル 4階 光の間  
富山市桜橋通り3-1 電話(076)432-4111

<内容>

- ・2018年度事業報告 ・2018年度収支見通し ・2019年度暫定予算

## 事 業 予 定

2018年 12月16日～2019年 2月15日

詳しくはホームページ(<http://www.toyama-keikyo.jp/>)  
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

	開 催 日	時 間	事 業 名	委員会名	場 所
会 議	12月18日(火)	16:30～17:30	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	富山電気ビルディング
	2月14日(木)	14:00～16:00	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	コマツNTC(株)
会 員 交 流	1月 4日(金)	16:00～17:30	新春互礼会 <small>上記「おしらせ」参照</small>		ANAクラウンプラザホテル富山
講 座 ・ セ ミ ナ ー	1月16日(水) 2月15日(金)～16日(土)	9:00～17:00	管理職マネジメント研修	教 育	富山経協・研修室
	1月17日(木)・23日(水)・24日(木) 2月 7日(木)	9:00～17:00	品質管理入門講座<実践編>	品質管理	富山経協・研修室
	1月22日(火)	9:30～16:30	C S (顧客満足) 基礎セミナー	教 育	富山経協・研修室
	1月29日(火)	9:00～17:00	次世代経営者育成セミナー ～ひと・しごと未来創生塾～	経営企画・IT	富山経協・研修室
	2月 5日(火)	13:30～15:30	2019年労使交渉セミナー	人事・労務政策	富山経協・研修室
	2月13日(水)	13:30～16:00	労働法実務講座 (第4回)	人事・労務政策	富山経協・研修室

「富山経協」vol.843

2018年(平成30年)12月号  
2018年12月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0856 富山市牛島新町5番5号(タワー111ビル 1階)

TEL (076) 441-9588 FAX (076) 441-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>

Eメール [info@toyama-keikyo.jp](mailto:info@toyama-keikyo.jp)